



[果樹部門]

[農業研究所ホームページへ](#)

6. ブドウ「オーロラブラック」の芽座を維持するための2芽せん定とシアナミド処理

[要約]

「オーロラブラック」は「ピオーネ」に比べて不発芽を生じやすく、特に1芽せん定では、不発芽の割合が高い。このため、芽座の維持には2芽せん定が有効であり、更にシアナミド処理を行うと陰芽の発生が促され、不発芽を低減する効果が期待できる。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 果樹研究室

[連絡先] 電話 086-955-0276

[分類] 技術

[背景・ねらい]

「オーロラブラック」は芽座が欠損しやすいため、必要な新梢本数を確保できていない園地が多く、葉面積の不足や収量減少の要因になっている。芽座の欠損の要因は主に不発芽であることから、せん定後に残す芽数を変えるとともに発芽促進効果があるシアナミド処理を組み合わせ、芽座を維持するための管理方法を検討する。

[成果の内容・特徴]

1. 1芽せん定での芽座当たりの不発芽の発生率は、「オーロラブラック」は「ピオーネ」より明らかに多い（表1）。
2. 「オーロラブラック」で2芽せん定を行うと、芽座当たりの不発芽の発生率は、1芽せん定より明らかに少ない（表2）。
3. シアナミド処理を行うと、本芽が発芽しない場合にも、遅れて陰芽が発生する芽座がみられ、芽座当たりの不発芽の発生率は無処理に比べて少ない（表3）。
4. シアナミド処理を行うと発芽が2～3日早まり、最終的な発芽率は無処理の場合に比べてやや高い（図1）。

[成果の活用面・留意点]

1. 2芽せん定を連年行くと、芽座が長くなるため主枝から離れやすく、果房がトンネルの端に近づく等、管理が行いにくくなるため、芽座の欠損が多い園地で実施する。
2. 2芽せん定と1芽せん定が樹内に混在すると、発芽時期の違いによる新梢伸長のばらつきを生じやすいため、一つの芽座の中での発芽を確認し、第1芽と第2芽が両方発芽する場合には、速やかに不要な芽（基本的には第2芽）をかき取り、生育のばらつきを少なくする。
3. 本試験ではシアナミド（CX-10）10倍液（展着剤なし）を、2月25日にハンドスプレーを用いて、すべての芽座に散布した。
4. シアナミド処理を行うと、発芽が早まり凍霜害のリスクが高まるため、凍霜害の多い園地では処理を行わないか、処理後の防霜対策を徹底する。
5. シアナミド処理を行う際には、防護具の着用や、処理当日の飲酒の厳禁等、本剤の使用上の注意事項を厳守する。



[具体的データ]

表1 品種の違いが不発芽に及ぼす影響（2019年）

品種	不発芽の発生率 ^z (%)
オーロラブラック	7.9
ピオーネ	2.0
有意性 ^y	**

^z新梢の発生がなかった芽座の割合
いずれの品種も1芽せん定とした

^yアークサイン変換後の t 検定により、
**は1%水準で区間に有意差あり

表2 せん定方法の違いが「オーロラブラック」の不発芽に及ぼす影響（2018、2019年）

年次	せん定方法	不発芽の発生率 ^z (%)
2019	2芽せん定	2.0
	1芽せん定	9.6
2018	2芽せん定	2.8
	1芽せん定	15.0
分散分析 ^y		
せん定方法		**
年次		ns
交互作用		ns

^z新梢の発生がなかった芽座の割合

^yアークサイン変換後の分散分析により**は1%水準で有意差あり
nsは5%水準で有意差なし

表3 シアナミド処理が「オーロラブラック」の不発芽に及ぼす影響（2019年）

処理区 ^z	不発芽の発生率 ^y (%)
シアナミド	0.3
無処理	2.0
有意性 ^x	**

^zシアナミド区はCX-10の10倍液（展着剤なし）を
ハンドスプレーを用いて芽座に散布した。
また、いずれの区も2芽せん定を行った

^y新梢の発生がなかった芽座の割合

^xアークサイン変換後の t 検定により、**は1%水準で
区間に有意差あり

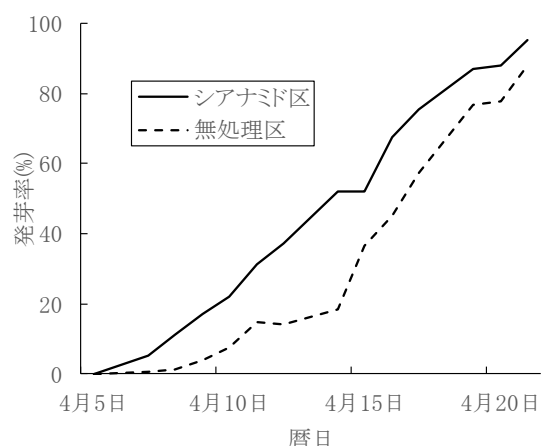


図1 シアナミド処理が「オーロラブラック」の発芽率に及ぼす影響（2019年）

[その他]

研究課題名：「オーロラブラック」のブランド力強化を目指したプレミアム果実生産技術の確立

予算区分・研究期間：県単・平29～令元年度

研究担当者：中島譲、安井淑彦、藤原聡、久保田朗晴

関連情報等：試験研究主要成果、[平17（25-26）](#)